

三条京阪に着くと、  
十一時二十二分のバスが出たとたん。  
約十分間待つ。  
退屈そのもの。

夕べの寒い風景とは全く感じがちがう。  
車も少なく、学生もいない。  
毎日通るバス停もいろいろな表情がある。

夕べの高田はんと健ちゃんの顔を思い出す。  
「もう、当分会わんなあ。」と思うと、  
変にさびしくなる。

「それでも、本当に、高田はんは、  
色白の、綺麗な、  
やさしい人やったなあ。」

風に吹かれて、スカートを  
押さえる姿を思い出した。

長い足の線がそのまま見えた。

「ああ、きたない、僕は！」

僕は、一体、何だ！

どうして、いろいろな女性のことを  
思い浮かべるんだらうか。」

そう思って、思いに沈んでいると、  
時間はあっと過ぎて、バスが来た。

大型でまあ、なぐさめ。

ゆったりと、前方一番前の席で、市内見学の気分。



389